

令和6年度 町政座談会 概要

(1)開催状況

【開催日】	【会 場】	【参加者数】
① 5月22日(水)	蕨岡まちづくりセンター	37人
② 5月24日(金)	遊佐町生涯学習センター	38人
③ 5月29日(水)	西遊佐まちづくりセンター	19人
④ 6月 5日(水)	稲川まちづくりセンター	26人
⑤ 6月 6日(木)	吹浦まちづくりセンター	16人
⑥ 6月 7日(金)	高瀬まちづくりセンター	26人
	6地区合計参加者	162人

(2)会議録

(■質問等、□町側の答弁)

5月22日 蕨岡地区

■①洋上風力発電について、どの程度の健康被害があるかを把握しているか。海外では健康被害に考慮された距離に建てられている。また、隣県の秋田県では健康被害があったという話も聞く。たった数十年の為に海を壊して、健康被害が出て、町民のためになるのか疑問である。

②洋上風力発電が漁業に与える影響は大きいと思う。これからの漁業に対してどのような考えを持っているか。

□①低周波問題や、シャドーフリッカーの影響があったという話は聞いている。健康被害は、生きていくことへの影響が出ることと認識している。今町ができることは、いただいている意見をしっかりと県、国に伝えることである。肯定的、否定的な意見を様々ないただいております、どの意見も大事だと思っている。国が決めたことだからと考えるのではなく、県、国と交渉していく。

②現在、地球温暖化等の影響でとにかく魚介類が捕れない状態である。加えて洋上風力発電の影響があるかどうかということであるが、漁業関係者からは漁礁として活用する方向であるとの話も聞いている。ただし、全員がそのような考え方ではないということも理解しており、漁業関係者からはこれからもしっかりと様々な意見を頂戴したいと思っている。

■PAT の施設プランイメージ(案)について、駐車場からの景観は、屋根の上に鳥海山が僅かに見える程度で非常にもったいなく感じる。日沿道の現在開通されている区間を走ると、非常にロケーションが良い。駐車場からもしっかりと鳥海山が見えるような案に直した方が良いのではないかと。また、風が強い場所なので、その点についても考慮しているか。

□現在のイメージ案ではあるものの、駐車場から見るとこのような景観になってしまうと思われる。建物の中からはしっかり見える案も示されている。現状の案であるため、頂いた意見は設計事業者、運営事業者に伝える。風の件については認識している。

■配布資料を見ると、子どもの教育などについての事業があることが伺えるが、若者についての事業がない。結婚しないと子どもは増えないため、独身の若者が集まる場を作っていただきたい。

□定住促進、出会いの場などのイベント企画は行っている。近年はコロナ禍だったこともあり、人を集めることが難しかったが、イベントを検討していきたい。三十路成人式など、首都圏に住む遊佐町出身の若者との繋がりを継続し、きっかけ作りに取り組んでいきたい。

■①最近の規模が大きな工事に役場庁舎の建設があり、落札率は 99.1%であった。入札の形態としては条件付き一般競争入札であり、条件としては地元業者の B ランクであった。通常、10 億円を超える工事で B ランクは一般的ではない。参考として、庄内町の庁舎建設は 20 億円規模だが、A ランク同士の JV(共同企業体)であった。これから新道の駅の建設工事の予定だが、全く同じ入札条件で行うのか、予定を伺いたい。

②一般論として、誰が見てもおかしくない条件、体制で行ってほしい。

□①現状、入札をどうするのかなど、そこまでの段階ではない。

②地元業者ができる限り潤うように行っていきたい。また、これからは新しいものを作るよりも、あるものをどのように活用するかなど、次世代に負の遺産を継承しないようにするという考え方が、時代的にも必要なのではないかと考えている。

■①外部から来た若い人の状況を教えてほしい。地域おこし協力隊の制度が定着し、多くの人々が来たと思うが、おおよそ何人が来て、何人が定住し、その後どのような仕事をし、現在どうしているのかなど、わかる範囲で教えていただきたい。

②卒業(退任)後も支援するという認識でよろしいか。

□①現在の地域おこし協力隊は、遊佐高校魅力化プロジェクト、遊佐高校生活支援コーディネーター、DX 推進、ICT 関連などの業務を行っている。現在までの累計ははっきりとお答えできないが、20 人は超えていると思われる。農業に携わる、会社を起こす、退任後も町へ協力してくださる方などいるが、最近の傾向としては起業する方が多いようである。定着率としては 60%を超えており、今後もどのようなことをしたいのかなど、寄り添いながら考えていきたい。

地域おこし協力隊の受入れは平成 23 年 2 月から開始している。10 年以上経過し、当初からは業務の内容も変化している。制度の目的としては、まちづくりに支援してもらうということが第一であるが、一方で、隊員が退任後に町に定住してもらうということも狙いとしてある。面接の際にはその点についても確認しながら行っており、定住の意志がある方を採用してきている。過去には仕事そのものに興味を持ってきたという方が多く、どちらかと言えば定住するというイメージは持っていないようであったが、現在は遊佐町そのものに興味があり、住みたいという方が増えている。定着率

は少しずつだが間違いなく上がっている。今後も定着メインの方向性で考えていきたいと思っている。

②当然ながら、そのように考えている。

■①集落に日向川の堤防があり、酒瓶が約 20～30 本捨てられていた。その際は役場へ連絡しすぐに撤去していただいたが、後日確認したところ再度の不法投棄が確認された。再度役場へ連絡し、その際は看板等の設置をお願いしたが、未だに設置はされていない。他の箇所にはのぼり旗を設置しているところもあるため、同様の対応をお願いしたい。

②月光川にはのぼり旗があるが、日向川には難しいのだろうか。看板ではなくのぼり旗で良いので、対応をお願いしたい。

□①これまでも何度か通報していただいている経緯があるが、イタチごっこのような状態が続いている。堤防は河川区域になるため、看板の設置については総合支庁へ相談してみないとわからないが、担当係と相談し、少しでも効果のある方法を一緒に考えたい。

②のぼり旗であれば対応可能なので、設置の対応をさせていただく。(看板設置済み)

■高瀬の谷地に田んぼを所有しているが、線路沿いから田んぼの方向へ雑草が覆い被さり、水路が埋まっている。草木で水路内の水も途中でせき止められており、草刈りをしようにもできない状態。以前に土地改良区と生産組合で嘆願書を出した経緯もあるが、町でも現状を確認し、写真を撮って JR へ嘆願するなどの対応をお願いしたい。

□近日中に確認するので、立ち合いをお願いしたい。(翌日、現場確認し、その後本人に連絡済)

■①杉沢北は海拔80mだが、全長 270mぐらいの風車が 40 基建てば、おそらく遊佐町のどこからでも見えるようになると思う。ジオパーク認定の観点に「景観」もあると思うが、ジオパーク認定への影響はないのか。

②洋上風力発電が行われることによって、町と町民にとっての利点は何か。

□①認定についての影響はないとのことで確認済みである。

②メリットとしては固定資産税の税収が増えることが挙げられるが、それに伴い地方交付税が減少するのではないかなど、メリット、デメリットについては様々な議論がされている状況。メリットをどう町民へ示せるか、これからチームで行っていこうと検討している最中であり、産業課に専門のチームも創設されている。

現在、公募に対して参加意思を表明している事業所が、具体的に内容の検討をしている。詳細については12月に示すことができると思うが、現在ではまだ大雑把な段階。遊佐町への直接的な面で考えられることとしては、建設に関わる方が何千人と当町に訪れることになるため、新たにホテルなどを建設するまではいかないと思うが、飲食や宿泊の分野の需要は大きくなる。また、酒田基地港湾での雇用拡大も期待される。洋上風力発電については国内の五大商社も参画の意向を示しており、現在までも

様々な提案を頂いている。明確に電気料が安くなるなどはないが、様々な効果を期待しているところである。

- 議員が長期欠席した場合の報酬の減額規定について、先進的であると思っているが、整備の進捗状況は。
- 遊佐町には現在規定はない。県内では市にはあるが、町村で規定があるところはない。東北管内では宮城県や岩手県にはある。規定がある自治体のものを参考にしながら、今年の2月26日の議員全員協議会において、方向性について協議を行った。出た意見としては、特別委員会を立ち上げ、一年ほどの期間で議論や検討を重ね、慎重に進めるべきではないかとの意見で一致している。その後、5月15日の議員全員協議会において、6月定例会にて議員発議の案件で、特別委員会を立ち上げることが決定しており、現在準備を進めている段階。
- 町民からすれば当然のことと考えている。議員の皆さまからも頑張っていたきたい。次に、議員報酬を活動した日で割るとどのくらいになるのか伺う。
- 一般の議員については、報酬、期末手当を含み年額375万円で、委員会や定例会等に出席する日数が年平均84日ほどとなっている。計算すると日額44,642円になる。
- 集落には高齢者しかおらず、若者がいない状況で、生活するための交通手段がない。これは他の集落も同じような状況だと思う。遊佐町には生活支援などボランティアによる対応はあるが、そのようなものに頼らずとも自分で生活できるような交通システム、仕組みを町に作れないか。
- 当面の対応だとデマンドタクシーの利用方法の改善が考えられる。現状土日は運行しないが、土日の運行についても現在検討を始めている。経費は当然増えるが、再度検討を重ねていきたい。

5月24日 遊佐地区

- 登下校について、見守り隊の目が届かない下校時の事故が心配。今年も厳しい暑さが予想される。下校時の対応についてどう考えているか。
- 昨年、米沢市にて熱中症による事故も発生しており、課題となっている。スクールバスの要望も受けているが、対応範囲には限界があるため、シミュレーションをしながら検討を進める。
- 少子高齢化と人口減少について、人口シミュレーションでは、遊佐町の30年後の人口は半減し、5~6千人となる見込み。人口減少の要因として、若年女性が少ないことが原因になっている。若年女性を増やす方策についてどう考えているか。
- 町の総合戦略では、30年後に8,000人を維持することを目指している。

今年度、人口ビジョンを改訂する。若年女性を町に増やすための戦略を織り込みつつ、町民の声を聞きながら進めていきたい。

■PAT の設計について、工事規模 25 億円のかかなり大掛かりなものになる。木材の調達・搬入、保管方法、盛土の地盤が下がることが想定されることなど課題が多い。

工期も1年では厳しいのではないか。工事についての目途は立っているのか。

□現在専門家から意見をもらい工事に関する様々なことを調整している段階である。検討経過も公開していきたい。

■①令和6年度遊佐町の主要施策についての説明時間が長い。振興審議会の情報を公開していれば、説明の時間は不要。来年は町民の声に耳を傾ける場にしていただきたい。回答不要。

②「SWGs」町内の幸せを追求する取り組みを実現していただきたい。行政改革の提案として、職員駐車場は必要ない。役場職員はバスで出勤(児童生徒の通学と一緒に)し、バスで帰ること。子育て世代の若者は、6 時間勤務とし、2 時間をテレワークとしてはどうか。回答不要。

■遊佐中学校のスクールバスについて、蕨岡と遊佐の一部は自転車通学となっている。そのため雨天時や降雪時は駐車場がかなり混雑する。スクールバスでの通学に全集落対応していただきたい。また、下長橋はエルパバス停を使用しているが、私立高校も同じバス停を使用している。バス停が小さく、雨風を防ぐことができない状況にあるため、バス停を大きくするか、私立高校のバス乗車は遊佐駅を使用するようにできないか。

□全集落に対応した場合の費用・バス台数・運転者数などをシミュレーションして検討していきたいが全てに対応することは難しいと思う。バスの乗車スペースの対応については、私立高校のバスの状況、駅の状況を確認し良い方法がないか考えたい。

■6月から八馳跨線橋が工事により片側交互通行となる。それに伴い下長橋集落の交通量が増えることが想定される。速度制限が無い状況で交通量が増えることは非常に危険であるため、酒田警察署へ速度制限を要請していただきたい。

□酒田警察署と情報交換したい。(翌日、遊佐交番に対応要請済)

■白鷹町では防災士の活動を行政主導で実施している。危機管理係で検討しているとのことだが遊佐町もスピードをあげて対応していただきたい。

□防災士について、町長、総務課長、危機管理係で学びを深めていきたい。

■50歳以上の方が接種対象となる带状疱疹ワクチンは、接種費用が高額なため、町からの助成することはできないか。

□酒田地区医師会と相談しながら前向きに進めていきたい。

■消防団の数は、自治会数よりも少なく、団員の人数も現在520人と減っている状況にあるが、何か対策はとっているのか。30年後の人口8,000人維持を目標とするのであれば、自治会数を減らし、消防団数との調整が必要ではないか。このことについて町職員より、ゼロベースで考えていただきたい。回答不要。

■婚活について、町ではどう取り組むか。

□庄内町でメタバース婚活が行われた。今年度遊佐町・庄内町共同で実施する予定もある。時代が変わり、これまでの婚活スタイルが合わなくなっている。町でも検討し取り組んでいきたい。

■R6 重要事業のマネジメントをするのは町長だけなのか。マネジメントを担当する部署はあるのか。

□総合的なマネジメントは企画課だが、トップマネジメントを町長の権限で行うこともある。今年度9月議会を目途に松永プランとして新たな施策を出していきたい。

■役場庁舎に2本のポールがあるが、旗が揚がっているところを見たことが無い。こどもの日などのお祝いの日も揚がっていないので、祝日は国旗・町旗をあげて祝うべきではないのか。

□国民の祝日に旗は揚げていなかったが、催し物(出初め式)などには揚げています。

5月29日 西遊佐地区

■最近の高齢化、空き家増加により回覧板の運用がうまくいかず、苦慮している。NTTが提供している結ネットをまちづくりセンターと各区長で講習を受け、現在試験運用している。非常に使い勝手がいいため、他地区でも結ネットを導入するような考えはないか。

□デジタル化で町(役場)が変わるように検討する。新しい情報が入り次第情報提供する。国の予算で伴走型の支援が採択となった。地域の皆さんのやる気を行政としても後押ししたいと考えている。

■集落から郵便ポストがなくなった。高齢者が困っている。町の方でまちづくりセンターにポストを設置してもらえるように働きかけてもらえないか。70周年記念事業の記念切手からめてポストにラッピングもできるのでは。

□実現可能性があるか探していきたい。

■①松くい虫の防除事業で対象となった樹木の伐採について地権者に連絡はないのか。昨年集落内で伐採が行われた箇所は青塚集落所有の土地だが断り無く伐採されたので不安に思っている。

②松枯れの防除だけでなく植林も必要。植林には協力したい。

□①松くい虫被害木は、本来は所有者が伐採するのが前提。防除事業は広範囲なので、基本的には広報等での周知で行っている。山林については個別に断らず伐採している、山林以外の土地にある木については土地所有者に連絡を行っている。昨年度の伐採については、再度場所及び所有者を確認して回答する。

②松くい虫被害木の全量伐倒は難しい。砂防林を守るための広葉樹植林の検討が始まっている。砂丘地の砂防林が守れるよう県と協力して進めたい。

■生活支援事業としてエプロンサービスを7年間行っている。庭木の簡単な伐採や除草などの需要が多いが、必要な機器(草刈り機等)が必要となる。機器の運搬に軽トラック等が必要となるが払い下げのトラック等あれば大変助かる。回答不要。

■集落で空き家が増加している。家主が不在の場合、草刈りなどの空き家管理はどこに頼むべきか。

□基本的には土地所有者の対応となる。ただし、所有者がわからなければ、町の方で土地所有者に連絡をとる方法もある。

■将来的に人口減少が見込まれ、税収減少が想定される。その場合住民サービス低下の恐れがある。洋上風力発電事業は基金も含め町の持続可能な運営を想定し、漁業振興を含め経済効果を町民と共有して町と事業者が共存できるような事業進捗を期待したい。

□基金も含め事業者の地域貢献策が町にいい影響を及ぼすよう町としても強く要望していく、地区の皆様からもご意見頂きながら進めていきたい。

■町内の交通改善対策として洋上風力事業基金等を活用して小型モビリティ(電気自動車)購入助成金に充てるのはいかがか。

□洋上風力発電事業者からは地域交通に関連した提案は頂いている。事業者が決定し次第、具体的に議論し進めていきたい。

■昨年7月に鶴岡で開催された原水禁のイベントで遊佐町だけ賛成反対の意思表示がなかったが何か町として思いがあつてのことか。

□昭和当時、町として非核に関する宣言をしたと記憶している。行政としてそういった形での意思表示はしているが、今回質問のあった催事に関しては町の意思表示が漏れていた形として捉えている。

6月5日 稲川地区

■①佐藤政養招魂之碑石灯籠保存修復事業の詳細を聞きたい。

②空き校舎利活用について、旧藤崎小に設置する四大祭の資料展示室の規模等の予定を聞きたい。

□①招魂之碑については以前保存処理を行った。今回はその脇にある石灯籠2基に対し作業を行うもの。風化による劣化が著しいため表面の剥離の修復及び倒壊防止処理を行う。

②空き校舎利活用基本計画策定の際、各地区にヒアリングを行い、四大祭を学ぶ・体感する場として藤崎小学校を利用してほしいとの声あった。旧藤崎小1階理科室を四大祭の展示・保管室として使用する予定。旧吹浦小は小山崎遺跡の資料館として整備していく予定。今後文化係を中心に教育委員会で検討を進めていく。

■①公民館からまちづくりセンターに変わり会長、事務局長を置いている。組織図を見ると何かあったときは企画課に相談となっているが、まちづくりセンターの立場、区長、まちセン事務員の序列を知りたい。

②より良い町づくりのために、6地区の各まち協同士の横の連携を強化できないか。

□①以前は役場職員が公民館に配置されていたが、現在は町から交付金を出し地域の皆さんから事業を担ってもらっている。各地区で組織の構成が違い、協議会の役職員は協議会が決めている。企画課はまちづくり協議会の活動の支援役を担っている。

②定期的に各協議会会長、事務局長で集まり、課題等情報共有する場を設けている。この中で得た他地区の情報を参考にしながら活動に活かしている。

■①PAT 事業で見込んでいる総事業費とその内訳について聞きたい。

②岩石採取のその後について、跡地の整地、緑化は進んでいるのか。

□①総事業費は約 30 億を想定。そのうち基金約 10 億、国補助金約 5 億と起債を充当する。

②今後新たな事業計画が出る可能性もある。これに対応するために今年度も水量調査、水質調査等は継続して行うため予算を確保している。緑化については県と一緒に事業者を含め意見交換している。緑化の計画があがってきた段階で情報提供したい。

■今後訴訟の可能性もある。科学的調査は水量調査だけでなく、もう少し踏み込んだ調査もしていただきたい。回答不要。

■遊佐高魅力化推進事業について、受け入れ人数の目標があるのか。また、地元生徒と県外留学生との交流について高校生活の様子をお聞きしたい。

□現状の体制では今の人数がほぼ上限と感じている。地元生の入学を増やしていきたい。学校での様子についてはわかりかねるが、お互い刺激し合って良い関係性を築き、意欲的に活動してくれればと思う。

■海水浴場開設事業について、観光振興としての十里塚海水浴場の位置付けは。運営は赤字のため町から補助金をもらっている。スタッフの高齢化も進んでいる状況。昨年は熱中症警戒アラート発令のため開設できない日も多かった。それでも開設は必要なのか。

□今後も維持はしていきたいとは考えている。十里塚海水浴場の継続については今後の課題として個別に相談させていただきたい。

■岩石採取に関わる河川や湧水の水質調査を継続していくべき。今後裁判になった際に証拠がないと弱い立場になる。また、「環境係」が「管理衛生係」に変更になり、遊佐町役場組織図から「環境」という名がなくなったことは問題なのではないか。「管理」という用語は行政用語でありイメージが湧かない。これからも環境について審議会を継続的に開催していく必要がある。

□ネーミング・形が重要というのは同感である。環境係からエネルギー政策業務を移管したため係の職員数・業務量の関係上2つの係を統合した。町民にわかりやすいネーミングをと考えこの係名とした。管理衛生係の係名については来年度以降の課題としたい。係名の変更が事務事業の継続性に影響を及ぼすことはない。審議会の継続開催にも努めていく。

■主要施策にある観光振興について、PAT 整備事業以外はいつも同じ。インバウンドに力を入れてもらいたい。観光客を外部から取り込むことができれば町にメリットがあるのでは。

□提案として受け止めたい。インバウンドが弱いのは認識している。表立って PR もしていない状況である。コロナ収束に伴う外国人観光客の動きを捉え、遊佐町にも誘導できるよう今後検討していく。

■国道 345 号線西浜のファミリーマートから菅野の旧国道7号線信号までの道路沿いにごみのポイ捨てが多い。のぼり旗を設置しているのは確認しているが、この対策について町はどう考えているのか。

□旗・看板を設置しているがなかなか難しい状況。道路管理者の県へ報告し草刈りを広めに行う等きちんと整備することでごみを捨てにくい環境にしていきたい。今後インパクトのあるキャッチコピーを入れた旗・看板にし良心に訴えていきたい。

■①十里塚から藤崎まで続く県道の坂道について何十年も整備されないまま。冬は対向車とすれ違うのも難しい状況である。県道ではあるが、町から県へ道路の拡幅を依頼してほしい。

②5/13 に白木ヘッドランド工事に伴う集落説明会が開催された。工事のたびに大型車が十里塚集落を経由して南下していくため、騒音や道路が壊れる等の苦情がある。国、県に対する取り付け道路などの要望に対し難しいとの返答だが、なんとかお願いしたい。

③きらきら遊佐マイタウン事業があるが、稲荷神社建て替えのための助成金・補助制度があれば教えてほしい。

□①現場を確認し状況を把握したうえで県へ要望を伝えていきたい。

②説明会の内容は把握しており、大変心苦しく思っている。長年の切実な要望とこのことで県へ伝えたい。

③きらきら遊佐マイタウン事業では神社事業は対象外。現時点で紹介できるものを持ち合わせていないため確認する。

■毎月の広報に人口の推移が載っているが、大体毎月何十人単位でのマイナスとなっている。遊佐町、また吹浦地区の人口の推移をどう見ているのか。

□報道等にもあったが消滅可能性自治体に遊佐町が含まれてしまった。

人口減少を緩やかにするなどの対策は必要である。町の計画の中には、人口減少対策に特化した計画として総合戦略がある。現段階では、今年度中に人口ビジョンを策定し、翌年度以降、町の人口減少対策の計画に基づいた施策を組み立てていく予定である。現状を把握して、課題や問題がどこにあるのかを押さえたうえで施策を展開しないといけないという話もいただいている。改めてこれまでの人口の推移の確認、計画の検証なども行いながら、人口増加に転じていきたいと思う。人口減少の流れを変えたいと思っているが、全国的な課題でもある。遊佐町でできることを考えていきたい。

■今の話はあくまでも遊佐町での話であるため、吹浦のまちづくり協議会ではどう考えているか。冒頭の会長挨拶にあった施策等を考えているのか。実際に施策を作っている人たちはどう考えているのか。現在ここに来ている人も高齢の人が多く見られるため、20年後には誰もいなくなってしまう。その後の世界をどう考えているか。

□今の話は貴重な意見としていただき、今後の課題とさせていただきたい。

■少子化が驚くべき勢いで進んでいる。町長がこの度の選挙に出る際に真っ先に挙げた公約の一つに、小中学校の給食費の無償化があった。現在の施策を作る段階ではまだ執行部ではないため掲載されていないが、来年の施策には新規・重点として載ると思われる。今どのような作業を進めているのか。

□給食費無償化については、町の財政面等を鑑みて、なるべく早く小中学校の無償化を行っていきたくと執行部と検討しているところである。今ここで断言できないが、施策の目玉として年内に答えが出せるようにしたい。

■5月31日付けのコミュニティ新聞に、18日に鳥海山沖洋上風力発電を考える会が開催した洋上風力に関する学習会の内容が2ページに渡り詳細に載っていた。町長にも文書や面談で案内をしたが来て頂けなく残念に思う。町長が対話を重視して町民の生の声を大事にするのであれば、是非こういった機会を大事にしてほしい。

担当課長より話があった洋上風力のスケジュールについて、1月19日に公募が開始されたが、1月1日の能登半島地震が起きた直後の公募に驚いた。これまでも津波に対する意識はあったが、漁港が干上がってしまう、地殻変動が起きるなどの地震の災害には意識がなかった。地震空白区域の遊佐沖で着床式の沿岸域に建てる計画を、海底活断層の詳細な調査や評価が終わる前に行うのは無謀だと学習会の講師から言われた。大きな地震があり、津波が来た際に被害が大きいのは吹浦であり、真っ先に吹浦漁港から水が上がってくる。超低周波音の被害を考えると、西楯、小野曾が多い。能登半島地震のように漁港が干上がるような地殻変動があった場合は、風車は建っ

ていられず、万が一倒壊した場合は120mのブレードが漂着して押し寄せてくることも考えられる。詳細な調査、耐震設計の基準ができるまで待つことはできないのか。そういった請願書を3月議会でも提出したが町議会で不採択になった。洋上風力発電は、国や県が強引に進めている事業ではあるが、法定協議会の住民代表として町長がいる。国や県が進めようとしていても、最後の決め手は町長だと思う。しっかりと情報や町民の声を取り入れて決断してもらいたい。回答不要。

- ①昨年末に閉店した清水森食堂について、条件が合う方が入ると聞いていた。移住者で該当者がいない場合は条件緩和もあると聞いているが、その後の状況はどうなっているのか。
- ②吹浦小学校の空き校舎利活用についての記事が先日の山形新聞に掲載されており、町では旧吹浦小学校の空き校舎は小山崎遺跡の展示場、保存館として進めていくと書かれていた。吹浦の住民としてはそういった形での活用は望んでいない。避難所及び若者が活性化する施設として活用してほしいと時田前町長にも要望を提出している。松永町長は町民の声を聞きこれから町政を進めていくことが一番のキャッチフレーズだったと思う。今までの進め方とこれからの進め方の流れを説明してほしい。
- ①移住検討者からの問い合わせや相談はあり、情報提供を行っているが、現状では店を開くところまでは至っていない。現在の条件からすると、「移住者に対しての店舗」という位置付けである。条件については今後見直すこともあると思うが、現状は当初に描いていたもので募集を続けている。いつまでも空き店舗のままでは心苦しいと思っているので、情報発信や情報収集を行いながら引き続き募集していく。
- ②現在検討しているのは小山崎遺跡のガイダンス機能や埋蔵文化財の調査機能、民俗資料の展示などを含めた鳥海山の自然と文化をテーマとした遊佐町の総合的な歴史文化の展示施設を目指して計画に掲げている。小山崎遺跡の整備基本計画を策定し現地を整備しているが、国指定の史跡である小山崎遺跡に関しては、ガイダンス施設がないと有識者からの指摘がある。現地の遺跡の整備と並行して旧吹浦小学校を活用し、皆さんが見学・体験できるようなガイダンス施設を整備していきたいと空き校舎の利活用計画に盛り込んでいる。空き校舎を利用するうえで、小山崎遺跡から一番近いのが旧吹浦小学校である。津波や災害についての危機感が一番あるのは吹浦であることは承知している。体育館などは引き続き体育館として使用しながら、いざとなったときは避難する施設として活用していく。それ以外にも、子ども教室で活用しているスペースやランチルームもある。空き校舎のすべてを展示施設にすると、避難所等のニーズに合わせたスペースがなくなるという懸念も聞いているため、そういったことを踏まえる必要もあると考える。ガイダンス施設というと、旧菅里中学校のように昔のものが置かれている施設で、常時人が見るような場所になってないイメージを持たれていると思われる。鳥海山の自然と文化をテーマとした、子どもたちや観光客が集まれるような施設として旧吹浦小学校や小山崎遺跡を活用し、勉強できる展示施設を目指している。メインとなっているのが小山崎遺跡のガイダンス機能を持った施設となっているが、地域の様々なニーズもあるため、こういった形で盛り込んでいけるのか、まだ検討途中である。いただいた声を踏まえてじっくり検討していきたい。

■先日まちづくり協議会の生活安全部会で避難所について話題になり、小学校の鍵の管理について話があった。誰が鍵を所持しているのか、また、どのように開錠するのかなど、はっきりしていない部分があることが課題となった。現在、旧吹浦小学校の鍵は、横三の区長宅に保管している。能登半島地震は起きている時間帯に発生したため、区長に鍵を借りて避難することは可能だったが、災害はいつ起きるかわからない。常時人がいる施設として特別養護老人ホームにしだてに鍵の保管をお願いして借りに行くことはできないかとの話になり、にしだてに申し入れを行ったが難しいとの回答であった。常時ではなく緊急時なので、話し合いを行いながら着地点を見つけていきたい。そこに対して、町からも協力等をお願いしたい。

□鍵については横三の区長以外にも町でも保管している。災害時は様々なことが起こるため、早くついた人の中で鍵を開けられる人が開錠することで、早く避難所が開設できると思う。鍵の所持については、今いただいた意見を参考にして誰が開けるかを含めて検討していく。緊急時のリスク分散という観点からも、際限なくとはいかないが、複数の方が鍵を所持しておくのが理想。特別養護老人ホームにしだてに置くのは妙案だと思う。相手方の都合もあるため、協議が整うように話しかけを行っていく。

■①松くい虫被害木伐採支援事業について、昨年度の実績はどの程度か。

②松くい虫被害については、1本でも切り残しがあれば虫を経由してすぐに近隣に広がっていく。ただ松が枯れる状況ではなく、伝染病であることを強調して発信してほしい。

□①昨年の実績は把握していないため、後ほど回答させていただきたい。(翌日、連絡済)

②松くい虫に関する状況や補助事業について改めてPRする必要があると感じている。補助事業だけでなく、伐採に入る際も広報で周知をするように指示を行っている。いただいた意見を参考にしながら対応していきたい。

■①洋上風力発電について、この事業による遊佐町へのメリットは何か。地域経済の発展に大きく寄与することについて、具体的にどのようなことを考えているのか。

②洋上に風車を建てることによって固定資産税等も入るのか。

□①法定協議会の意見とりまとめの中では大きく6項目の期待されることが記載されている。具体的にはこれから事業者が決定し、事業者の提案してきた内容を町民に向けて周知することになる。これまで町に対して問い合わせや事前相談をした事業者すべてが手を挙げるかわからないが、各事業者が遊佐町のメリットになるようなことを提案している。公共施設に対しての非常時の電源の確保や雇用対策、これから行われる酒田の港湾整備も含め、遊佐町だけではなく庄内管内の雇用が増えることが見込まれ、新しい産業が生まれるなどの話も出てきており、経済の活性化が期待できると考えている。しかしまだ事業者が決定していないので、町民に対して具体的な周知ができないことをご理解いただきたい。

②固定資産税については町の海域であるため、町に入ることになる。

- 事業者が決まっておらずどういった提案があるかもわからないが、本当に進めるのか。
- この事業は約2千5百億円から3千億円の総事業費、その分の経済波及効果がある。
- その経済波及効果は遊佐町には関係がない。遊佐町に対して2千5百億円の金が入ってくるのか。
- 事業規模がその程度であり、同程度の規模の事業は今後遊佐町にはないと想定されている。いかに経済効果を引っ張ってくるのか、これから決定する事業者と話しを詰めていきたいと思っている。
- 本当に町の活性化につながると思っているのか。
- そのために今進めている。

■①部活動の地域移行について、令和6年度末には終わらせると説明があったが、なぜ中学校だけなのか。高校や小学校がないのはなぜか。

②現在、中学校の部活動をやめてクラブ活動に移行している生徒が多くいる。中には山形など他地区のクラブに通っている学生もいると聞いている。そういった生徒は、金曜日にここから2時間ほどかけての移動を毎週のように行っている。このような状態は部活動を地域移行するに値するのか。できるなら片道30分で行けるような距離のクラブに限定して地域移行する形を取っていただきたい。

③今後部活動はなくなるのか、中体連は廃止になるのか。

□①昨今の教員の働き方改革については、中学校の部活動が一番教員の勤務を圧迫している。土日の部活動、遠征、大会等に圧迫される中、超過勤務が毎月80時間を超えないように法令化されている。できれば45時間に抑え、将来的には20時間未満に抑えるという方向性にきている。現在超過勤務が80時間を超えている教職員の一番多い校種が中学校である。

②③遊佐町としては遊'sで学生や保護者のニーズに答えられるような体制づくりを行っている。2年前に実際に進めようとしたが予算が付かず、国ではもう3年伸ばしている状況である。地域も受け皿としての体制作りができていないかと問われると、財政面や指導者の面でできていない。学生や保護者が山形や天童など内陸に足を運ぶ現状も把握している。本来であれば庄内で指導者やクラブ、スポ少など受け皿があれば一番いい。今まで3年やってもだめだったことを、更に3年伸ばすことに対してだらだらと行っている感覚があるため、遊佐町では1年前倒しで行うことにした。コーディネーターを採用しながら進めていこうとしているが、実際に3月までに部活動の地域移行ができる保証はない。なんとか形にしていきたいと関係者で協議検討を行っている。生徒、保護者や小学校5、6年生のアンケートを参考にしている。すべてのニーズに答えるというコンセプトはあるものの、様々な面から実際にすべてのニーズに答えることは難しいと考えている。中学校についてはまずは土日の地域移行、整ってきたら平日も地域に移行できるように進めていきたい。中体連については進んでいない。国、東北、県、地区と降りてくる。そこに対する抜本対策は難しい。県から届くクラブチームの一覧表を確認しても、大会参加については答えが見出せず、問い合わせを行っても検討中だとの回答のみ。現在は中学校単位、統合チームのみとなっている。

■時田前町長は、人口は行政の通信簿で、人口が増えているところはいい行政運営を行っていると言っていた。今の遊佐町は人口減少率に歯止めがかからない。今から15、6年前、遊佐町では毎年100人くらいは子供が生まれていた。しかしここ近年50人を割っている状況である。人口についても毎年250～350人減少している。町の人口ビジョンとしては2050年には8,000人の人口規模になると想定しているが、今の歯止めのかからない状況を考えると、2050年に8,000人いるとは考えられない。社会動態と自然動態について、町がどれだけの施策を講じて人口減少に歯止めを効かせようとしているのかが見えてこない。単年度目標として、人口減少を250人以下にする施策を展開していかなければ、危機的な状況からは抜け出せない。消滅可能性自治体に含まれてしまったということを踏まえ、単年度目標を定めて施策を展開していただきたい。回答不要。

■遊佐町の職員数、100人もいないのか。

□149名。会計年度任用職員が114名。

■それだけの人数で、これだけの事業をどこまでやれるのかと聞こうとした。

6月7日 高瀬地区

■役場職員の皆さんに元気な挨拶をしてほしい。明るい役場職員を目指してもらいたい。

また、町民同士で打ち合わせをするために廊下の打合せスペースを使ってもいいのか。

□挨拶について、若手職員も含めた全ての職員に伝えたい。

□廊下の打合せスペースに関しては、基本的には役場の職員が打合せを行う場ではあるが、業務に支障が出ない限りは使っていただいて構わない。

■①昨年度も質問したが、バス停整備の進捗はどうなっているのか。バス停整備の経費はスクールバス運行管理事業費の中に入っているのか。

②遊佐町が消滅可能性自治体と言われている。町長は起爆剤・アイデアを持っているか。

□①スクールバス運行管理事業費は、スクールバスの更新や運転手人件費等の予算である。また、教育委員会でも昨年度の質問以降、設置されているバス停の調査を行った。保護者等の意見が挙がっているものを順次対応している。今後も意見を踏まえ進めていく。

②特効薬や起爆剤があるわけではない。一つひとつ丁寧に対応しなければならない。ここにいる人たちは遊佐町を良くしようと思っている人の集まりだと思っている。国の責任もあるが、町でやらなければいけないこともある。皆さんからも声をあげてほしい。アイデアを実現できるものについては皆様にもしっかりと報告していき、住みよい町を目指していくために邁進していきたい。

- ①升川山居林道の橋が昨年度から通行止めになっているので早めに対応願いたい。
- ②イノシシの被害が急拡大している。電気柵補助だけでは不十分だと思うので、猟師への報償金などの対策を考えてもらいたい。
- ①山居林道の橋の補修についてはかなりの予算になると思われるので、財政当局と議論し進めていきたい。
- ②イノシシに関して、問い合わせが非常に増えている。町としては、昨年度から引き続き防護柵の補助を行っていく。今年度も何件か申し込みが来ているので、補正予算等に対応していく予定である。抜本的な対策はないが、まずは自主防衛を支援したい。

- 菅里橋東側の交差点付近で、道路と敷地の段差が大きいため、昨年度もガードレールの設置を要望した。その後の状況は。また昨年、交差点付近で空き家になったところがあるので、ガードレールの移し替えでうまく対応することができないか。
- 昨年庄内総合支庁と一緒に調べ、道路敷と民地との境で道路敷が狭く、ガードレールの設置が難しいため外側線を引き直した。庄内総合支庁から改めて調査するとの連絡が来ている。後日、本日の意見も踏まえ改めて庄内総合支庁と協議する。(庄内総合支庁に現地踏査要請済)私も実際に現地を見に行き、危険であると実感した。本日の意見も踏まえ改めて庄内総合支庁に要望する。

- 畑地区に防火水槽が3カ所あるが蓋がない。前区長もお願いしたがコンクリートの劣化が激しくできないとのことだった。消火栓が整備できたため、防火水槽を撤去してもらいたい。
- 現場確認を行った上で、対応を検討したい。

- パーキングエリアタウン敷地内に24時間営業のコンビニがあれば活性化につながるのではないか。
- これまでの意見交換の中でも話が出ているが現状では難しい状況。ご意見があったことは今後の協議の場でも出していきたい。
- 敷地内へのコンビニ誘致は難しいと考えられる。パーキングエリアタウン整備を1期計画とすると、周辺開発を2期計画として仕掛けていく必要があると考えている。敷地内は再整備可能なので、東回り県道の利便性の向上や空き校舎の利活用、洋上風力事業の地域貢献策などいかに町づくりに落とし込んでいけるかが重要。

- パーキングエリアタウンが完成することで観光や交流人口が増え地元への経済波及効果を期待している。これから事業主体との調整があると思うが、情報発信・情報交換をしながら町民と連携して進めてもらいたい。
- ご意見としていただく。

- 町道松山－丸子線について、高速道路の工事でダンプの交通が多く道路がかなり下がってしまった。雨がふると側溝に流れず、溝を流れ、一番下にある集落の神社の敷地内に溜まってしまう。以前も要望したが、途中で逃がすのは地形的に難しいのか。

□具体的な対策までには至っていないので、再度、現場確認を行った上で対応を検討したい。(水路、集水桝の浚渫対応済)

■旧高瀬小学校へのまちづくりセンター移転改修に関連して、2階の部分が貸しオフィス等の計画となっている。2階部分の改築のタイミングややり方、他の使用団体との調整はどのようになっているのか。

□これまでの改築検討委員会でも話題になった。2階部分の使用時期や使用方法はまだ決まっていないため、具体的に決まり次第検討する。

■洋上風力発電の業者が町に来ていると思うが、事務所は酒田で、宿泊も酒田。これからメンテナンス等で業者が増えても酒田に滞在かと思われる。地域振興という名目での町への歳入はどのくらいあって、どのように使うのか。

□町の経済発展について、各産業団体が中心となり検討する組織を立ち上げたところである。作業員の宿泊は、庄内地域のホテルを全て押さえても足りないと思われる。酒田市でも簡易宿泊施設の構想もある。今後、事業所が決定したら話を詰めていく予定である。洋上風力発電事業では、事業者が基金を積み立てることになっている。どのように使うかについて先日県と関係者で協議が始まったところなのでこれから詰めていきたい。町としては基金以外の部分でも事業所からどこまで地域に貢献してもらえるか今後要望していきたい。